

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第326回

スコット・フィッツジェラルド

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年10月13日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

Never confuse a single
defeat with a final defeat.

たったひとつの敗北を、決定的な敗北と

勘違いしてはいけません。

フランシス・スコット・キー・フィッツジェラルドは、アメリカの小説家、短編小説家。一般には筆名のF・スコット・フィッツジェラルドとして知られる。1920年代の「失われた世代」の作家の一人とみなされ、狂騒の「ジャズ・エイジ」を描いたその作品は後世の多くの作家に影響を与えた。

Column

スポーツに携わる私にとって敗北という言葉から連想されるのは、やはり大会・試合での敗戦になります。正直言って敗北の二文字は、どのタイミングであっても見ることも嫌な言葉です。それが“決定的”という言葉までプラスされるとなると『自分の存在を否定する(される)』というくらいネガティブなイメージです。団体スポーツに携わっている私は、現役時代に大会のメンバー入りを逃した経験があります。その時は今回の言葉のように捉えられず、自分を否定してしまうことがありました。経験を重ねることで少しずつ納得できるようになっていきましたが、やはり『なんで自分が外れるんだ…』と指導者に対する不信感を抱いたり『勝負さえできないのか…』と落ち込んだこともありました。現在、指導者側になって様々な視点から“勝負”というものを総合的に判断する大切さも学び、選手たちに伝えていこうと試行錯誤を繰り返していますが、伝える度に自分のことを客観視するという事は非常に難しい作業だと感じています。

失敗しても目標達成に至らなかったとしても、チャンスはまた訪れます。全力でチャレンジした結果が失敗や目標達成に至らなかったのなら、力不足やその他の様々な要素が足りなかったという事実として前向きに受け止めることこそが必要であり、それは自分自身を否定することではないと私は思っています。ですから敗北感を抱いた時に必要なのは再トライを含めた今後に向けての準備を始めることです。その準備のひとつ目が休むことであればしっかりと休むことも重要です。それができない状況であれば如何に有効な一歩目を踏み出すかを考えることです。そのためには分析と理想のゴールを明確にイメージすることではないでしょうか。そして、さらに必要なのはゴールに到達した時の自分がどれだけ『最高だ!』と喜べるのか、それを味わえるワクワクをどれだけ自分で生み出せるのかも非常に重要です。強気でチャレンジする正智生を応援しています!